

慶蔵院寺報

公孫樹

2023年6月発行

第137号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

☎0596(22)3726



子ども会 花まつり 画 山寄淑子

五年後の五重相伝開催に向けて、念仏の興隆を



葬儀の務めを果たさせてもらっていると、いろいろなことを感じさせてもらう場面に出会います。特に出棺の前、お花を入れながらお別れをするとき、家族や参列された方々の思いが、目に見えて伝わってきます。

深い悲しみの中にあっても、安堵に似た雰囲気漂う場面であっても、いつも思い浮かぶことがあります。「お念仏信仰を、これまで、どれだけ伝えられていたのか…」「お念仏は、どれほど、みなさんの心の支えになってきていたのだろうか…」「自分はこれまで、どれだけの務めを果たすことができたのか…」という反省の念です。

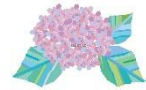
せめてもの思いをもって、枕経を始める前に、先に往生される亡くなられた方に、語りかけることにしています。

私たちは、死んでも死なないのです。永遠に生き続けるのです。真実に生まれるのです。私たちは、永遠の世界に生まれる前を生きてきたのです。みんな南無阿弥陀仏とお称えして、あなた様を阿弥陀様のお約束通り、極楽に送ります。迷うことは何もありません。私の声は聞こえていますね。どうぞ一緒に南無阿弥陀仏と称えてください。そして『いまから極楽に進むぞ』と覚悟を定め、まっすぐに安心して、お進みください」と。

信仰の第一は、「いのち」「魂」は、死んでも無くならない。永遠であると感じることにあります。そして南無阿弥陀仏と称えるとき、必ず極楽に生まれることができると思われ、信じられる信仰に入る。ここにどれだけ力強い救いがあるかということも多くの人に確信してもらいたい。より深い救済の信仰を得ていただくために。何を、どうすればよいのか…、どのようにこの与えられた務めを果たさなければならぬのかと、考えています

その一つとして、令和十年の十一月一日から五日までの五日間、五重相伝を計画させていただきます。お説教には土屋正道上人をお迎えし、宮川組内御寺院の協力をいただいで、住職としては最後となる令和の五十相伝に取り組みたいと思います。

6月の行事予定



7日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
11日(日)	子ども会 「一会館」にて	午前10時～絵本紙芝居 午前11時～ フルーツアンサンブル 「ティアラ」
12日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清美先生	午後1時半～ 参加費2000円 と 花代
14日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～ 一会館にて 無料 おひねり歓迎
21日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費500円
10日・24日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
28日(水)	地蔵講・地蔵堂開帳	午後1時半～
25日(日)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて 鐘撞は午前8時頃～
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
9日・23日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

慶蔵院 号知識

part2

①

浄土宗新聞の見どころを寺話人の麻畑さんに頼んだところ、内容が面白いので、ネタが尽きるまで「豆知識」第二弾も書いてほしいとお願ひしました。今月号から開始です。どうぞお楽しみに。

今回は、不思議な数字 3・6・9 について話してみたいと思います。足し算をしてみましよう。

3+3=6 3+6=9 3+9=12 2桁の場合に分けて、1+2=3 6+6=12 1+2=3 6+9=15 1+5=6 9+9=18 1+8=9 と外の数字は出てきません。掛け算も同じ結果になります。

これは、エジソンと同時代にいた、天才発明家ニコラ・テスラが気付いた宇宙の法則なのです。テスラについては後日機会があれば話したいと思います。

3・6・9 は見えない世界を表す数字で、他は現実世界を知る数字だそうです。

では、3・6・9 にまつわる数字を探して見ましょう。私がびっくりしたのは、慶蔵院の大数珠まわしの念珠で、アカガシとツガの樹でできた玉が216個、2+1+6=9 念珠は108個の2倍、1+0+8=9。十一光仏、1+2=3 三礼 1年は12か月、1+2=3 1日は24時間、2+4=6 1時間は60分、6+0=6 角度360度3+6=9

日本三景、日本三庭園、スーパーに行けば、納豆3個、一パックで売っています。ビール等の飲料水は一パック6個、一ケース24本、2+4=6で売っています。他にもいろいろ見つけることができ、まことに不思議な数字なのです。

(文、麻畑公生)

母葬儀全般の「会計報告」を報告させていただきます。

母、前島栄子の「檀家葬」、たくさんの方々にご参列いただきましてありがとうございました。

「檀家葬」とし護持会費より1,000,000円を必要経費に支出することを決め、寺一般会計より借入しました。

「通夜見舞い」585,000円「香典」3,984,000円、合計4,549,000円をご厚志として賜りました。

以上、総計額は5,549,000円です。

通夜・葬儀・満中陰に支出した費用は下記の通りです。

供花	99000円	通夜寺世話人昼食	9,396円	満中陰	寺関係粗供養等	134,400円
お棺等	602,910円	通夜弁当	52,000円	満中陰御十念料		120,000円
寺準備一式	436,700円	通夜夕食	93,500円	御位牌		30,000円
返礼品	2,413,576円	通夜御十念料	160,000円	満中陰食事		92,000円
ガードマン	66,000円	葬儀御十念料	160,000円			
駐車場使用料	13,360円	法礼	470,000円			
スロープ	349,140円	御返香	130,000円			
				支出合計		<u>5,431,982円</u>

御母堂送るサクラ満開阿弥陀仏
奥田 悦生
〔「知恩」六月号「柳壇」に掲載〕

会館

第2水曜 14日 午後7時

面白かったらおひねりを!!



落語会「いちご亭」

無料です

(16)

住職の健康回復への道のり

今日は五月最後の施療の日でした。血圧の薬を使わずに、利尿剤を処方してもらいながら、徐々に様子を見ています。上は、高いときでも150代以下、下はなんとか95以下で落ち着いています。基準値よりは高めですが、薬に頼ることなく根本治療で血圧を下げることを目標にしています。尿酸値は、薬を使わずに基準値内に収まり、クレアチニンも合格、心臓の周りにたまっている水の量を示す数値がまだ少々高めではありませんが、時間をかけて自己治癒力による回復を目指したいと思います。今日は、二四時間ホルターを提出、その結果は来週になります。これまで心臓の夜間の停止が7.2秒から4秒以下、心臓が20分つづきまよき。さ

麻畑公生の「浄土宗新聞」 見どころ・読みどころ

ころ

今月号の「法然上人の生き方に学ぶ」で、父時国の「教育の力」について、以前読んだ新聞の記事を思い出しました。



卒業式で歌う「揚げば尊し」の「教えの庭」が論語に由来する「庭訓」であり、親の教育、特に父親の教育の意味だったというものです。

今はどうでしょうか。学校任せではないでしょうか。知識は学校に任せて、人間として生きていく知恵は、父親が教えるべきでしょう。母親は、精一杯の愛情を注げばよいのではないのでしょうか。

山崎弁栄上人も、父親の嘉平さんに人間としての教育、ことに念仏する後ろ姿を受け継いで

第120回



6月11日(日) 午前10時

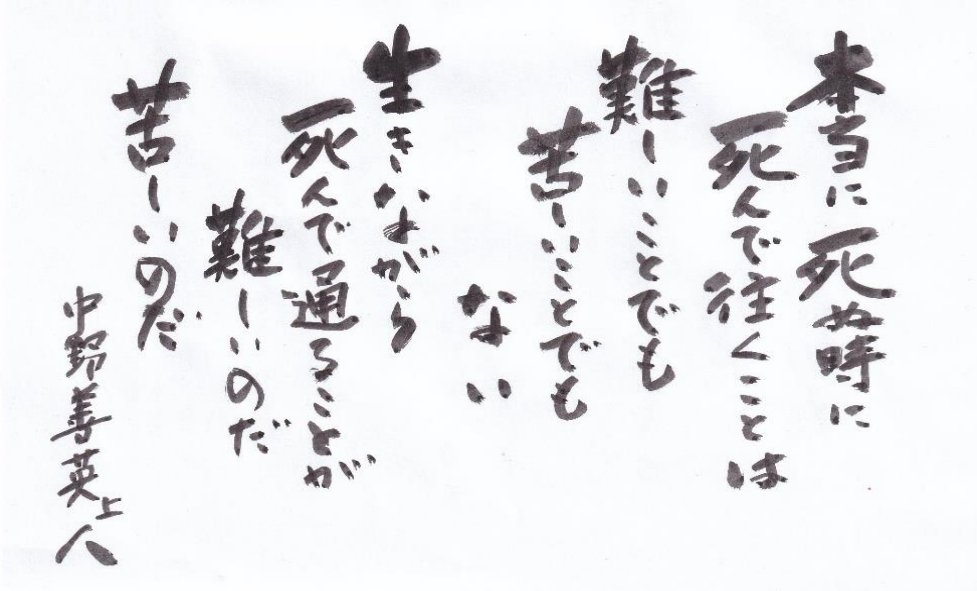
第一部 高橋薫さんグループによる絵本読み聞かせ・紙芝居

第二部 フルートアンサンブルトリオ

「ティアラ」の皆さんによる
いろいろなジャンルの生演奏を
お楽しみください。

ご家族そろってどうぞ!!





山崎弁栄上人は「阿弥陀如来が見えても見えなくても、如来の实在を信じて一心に念仏せよ…一心に念仏して信仰が育ってくる」と如来が知れてくる。自分が仏子であることの自覚が生まれてくる。如来と自分の心が一つになることを念仏三昧という」と語っておられます。

毎朝六時、慶蔵院の本堂に上がって「礼拝儀」と共に四百遍の念仏を称えることを通して、私たちの生活は確かに変わってくるのです。阿弥陀様に「育てられ、導かれ、護られ、救われている」と実感できる「光明生活」を送ることができるようになってくるのです。「なんとなく、そんな気分がしてきた…なんとなく心が温かくなってきたように感じる…」という実感を大切にしたいことです。

信仰が進んでくると、念仏の必要性をもっと感じるようになります。東京の観智院、土屋正道上人を中心にすすめられている「二十四時間不断念仏」や「世界同時念仏」にも、とくに改めて日程を定めることなく毎朝の日課の中で、できる範囲で、朝の六時から七時までの一時間、参加しています。六十分間ですから二千四百回ほどの念仏になるでしょうか。先日、はじめて不断念仏を経験された方が「今日は修行をした…という感じじゃ」と言っておられました。時にはこのようなことも大切なことです。

以前にも紹介しましたが「伊勢・慶蔵院ブログ、YouTube」で動画を配信してくれている林さんが、インターネットで全国や・世界をつないで同時に念仏ができるような体制を、その都度ととのえてくれているのでできるわけです。大きな仏縁をいただいていると感謝しています。

法然上人は「一文不知の愚鈍の身」と、私たち凡夫のことを伝え下さっています。私たちは仏の智慧から見れば、一つの文字も読めないような愚かなものです…。何でも分かっていると自分を過信することなく、一生懸命に念仏をすることこそ、救いにつながる…。法然上人は解いてくださいました。

本当に私たちは「生まれてくる前のことも、死んでから後のことも、心は真つ暗闇で何もわかっていないのです。」「わかっていないのに分かっていると思っ生きていくことを」「生きていながら死んで通る…」と善英上人は語りかけてくれています。このことに気づくとき、私たちに信仰の灯がともりだすように思います。闇の中に如来の光明が差し込んでくるのです。